



1 市民に提供するサービスその他の業務の質の向上(医療の質の向上)

◆市民病院としての役割

- 《救急医療》
  - 中央市民病院は市全域の基幹病院として、24時間体制の救急医療を継続し、新病院移転後からは専用病床を50床に拡充し、機能強化した救命救急センターにて緊急度と重症度に応じた、より迅速かつ的確な治療及び処置を行った
  - 西市民病院は市街地西部の中核病院として内科系・外科系での救急医療を毎日午前0時まで、金曜・土曜日は24時間体制で継続し、中央市民病院移転期間の全日24時間対応や10月からは日曜日の24時間救急を開始した
- 《小児・周産期医療》
  - 中央市民病院は引き続きハイリスクな分娩へ対応するとともに、新病院では育成医療センターを設置し、機能を充実
  - 西市民病院は小児科医の確保により診療体制を強化するとともに、小児救急輪番制の担当回数を増加させ、さらに周産期センターを設置するなど充実を図った
- 《感染症医療》
  - 両病院において、感染管理専従看護師を中心として感染防止及び新興感染症対策への取り組みを継続した。特に、西市民病院においては、新たに感染管理室を設置し、体制の強化を図った
- 《災害時等における医療》
  - 東日本大震災における被災地支援として、両病院より医師及び看護師等を派遣し、医療救護活動等を行うとともに、緊急時に備え災害訓練等を実施した。特に、中央市民病院では新病院に対応した多数傷病者受入れ訓練を行った

◆専門性の高い医療の充実

- 中央市民病院では4月より総合診療科を設置し、患者ニーズに合わせた総合的な診療を提供、7月からは腫瘍内科を設置し各診療科と連携してがん化学療法を積極的に行った
- 西市民病院では総合内科の診療枠を拡大し総合診療体制の充実を図るとともに小児科等において専門外来を開設

◆市民・患者サービスの向上

- 中央市民病院では、新病院の外來において携帯呼出端末や自動精算機の導入によって、待ち時間の有効利用や短縮を図った。また、入院前検査センターを設置し看護師、薬剤師などによるスクリーニングや持参薬の確認により患者のリスクを軽減し、医療安全と安心につなげた
- 西市民病院においては、外來看護担当マネージャー及びフロアマネージャーを継続配置し、総合案内機能体制を継続

◆地域医療連携の推進

- 中央市民病院は地域医療支援病院として紹介・逆紹介のさらなる推進に努めるとともに、顔の見える連携を図るため、「連携登録医のつどい」を継続し、西市民病院では将来的な地域医療支援病院に向けて地域医療機関への診療科部長の積極的な訪問やかかりつけ医相談窓口の試行開設等の取り組みを行った
- 両病院において地域医療従事者向けのオープンカンファレンスを継続実施した

◆安全管理・チーム医療の推進

- コンプライアンスの推進、医療安全対策、院内感染防止の徹底を図り、安全管理に徹した質の高い医療を提供した、中央市民病院では、7月に発生した医療事故について事故発生原因を調査するとともに再発防止策を講じた。また、手術室等にサテライトファーマシーを設置し、薬剤師が常駐することにより医薬品の適正管理を徹底するとともに医師等の負担軽減につなげた
- 職種を超え専門職が一つになって総合的に医療を行う「チーム医療」を推進した

◆医療の標準化・診療情報分析

- クリニカルパスの運用については、中央市民病院では新病院より導入する電子カルテに対応したパスを整備し、移転後より運用を開始するとともに、各診療科に対してアンケートやヒアリングを実施し種類数及び適用率の向上に努めた
- 西市民病院においては、引き続き、種類数の増加及び積極的な活用を図った
- 両病院においてDPC分析ソフトを活用し、ベンチマーク比較等各種データを診療科に示すことで医療の質の標準化を推進した

◆臨床研究・治験の推進

- 両病院において、治験及び臨床研究を積極的に推進した

3 安定した経営基盤の確立(資金収支の均衡)

	(単位:億円)			
	22年度実績	23年度目標	23年度実績	前年度比目標比
単年度資金収支	31.9	15.1	38.0	+6.1 +22.9

◇ 23年度決算は、中央市民病院の新病院移転前後の診療機能制限、移転に伴う費用増加及び旧病院の売却収入等も見込んだ目標に対して、中央市民病院では効率的な病床運用、特殊病床加算の取得、地域医療連携のさらなる推進等により、また西市民病院においては、医師確保の進展による入院・外來患者数の増加や病床利用率の向上等により、両病院の医療収益が増加し、**目標を大きく上回る結果**となった

2 業務運営の改善及び効率化

◆すべての職員がプロとして活躍し、やりがいがある病院

- 看護職員に対する資格取得等支援 (看護大学編入学、大学院留学、長期留学、短期派遣の継続実施)
- 医療技術職員に対する支援 (学術研究費、臨床研究助成の継続実施)
- 事務職員・技術職員に対する支援 (資格取得支援制度構築に向け骨子を策定)
- 優れた専門職の確保 (任期付正規職員制度の活用、経験者採用の継続、看護師の初任給基準の改善、院内保育所の延長保育料の引き下げ・体調不良児対応型保育の開始)
- 職員満足度の向上 (育児短時間勤務制度の継続、医療クラークの活用、警備体制強化のため警察OBの継続配置、リエゾンナースによるメンタルサポート)

◆人材の成長を促進する人事給与制度と育成プログラムの充実

- 努力が評価され報われる人事給与制度 (経験者採用の継続、専門・認定看護師手当の継続、優秀職員表彰の継続)
- 研修制度の充実 (採用後3年次固有職員研修を開催、幹部職員マネジメント研修の継続、全職場内研修の継続、委託職員への研修会の継続)

◆教育病院として人材育成への貢献

- 教育病院としての指導力の向上 (中央市民病院総合診療科・西市民病院総合内科の医師による若手医師の教育、クリニカル・フェロー制度に基づき医師の採用)
- 看護大学等との連携 (看護学生、薬学部等学生の受入れ)

◆外部評価の活用・監査制度の充実

- 病院機能評価施設等認定 (両病院 平成21年更新認定、中央市民病院救急医療 平成22年2月認定) (中央市民病院は卒後臨床研修評価機構認定施設 平成23年10月更新認定)
- 監査制度の充実 (監事監査、自主監査・相互監査の継続実施)

◆環境にやさしい病院づくり

- 省エネ CO2排出量の削減 (両病院 事務部門の昼休み消灯・廊下等の間引き点灯、空調設定温度の調整、コージェネレーションシステムによる電力節減等、中央市民病院では病棟・外來スタッフステーションも間引き点灯)

4 中央市民病院の再整備・医療産業都市構想

◆中央市民病院の再整備

- 移転、開院に向け、各部門別トレーニングや総合リハーサル等を重ね、新病院への入院患者の移送等を事故なく安全に行った
- 移転後もPFI業務に関するモニタリングを定期的実施し、業務確認や改善を図った

◆医療産業都市構想への寄与

- 中央市民病院において、先端医療センターと連携し、連携会議を継続開催するとともに、高度医療機器の共同利用や共同研究を実施



数値目標の達成状況

【中央市民病院】

目標値達成

	22年度実績	23年度目標	23年度実績	前年度比目標比
紹介率 ※ (%)	50.2	48以上	52.5	+2.3 +4.5
逆紹介率 ※ (%)	76.4	75以上	79.8	+3.4 +4.8
クリニカルパス数 (種類)	303	300	287	△16 △13
クリニカルパス適用率 (%)	57.5	60.0	49.7	△7.8 △10.3
経常収支比率 (%)	110.6	93.9	101.2	△9.4 +7.3
病床利用率 (%)	93.0	90.0	91.0	△2.0 +1.0
材料費比率 (%)	30.9	33.0	31.6	+0.7 △1.4
経費比率 (%)	16.3	26.0	20.1	+3.8 △5.9
給与費比率 (%)	45.2	49.8	45.3	+0.1 △4.5

※ 「紹介率」「逆紹介率」地域医療支援病院算定式での算出、但し西市民病院における ( ) 内の数値は従来算定式での算出をしている

【西市民病院】

	22年度実績	23年度目標	23年度実績	前年度比目標比
紹介率 ※ (%)	— (42.6)	40以上 (38以上)	40.7 (44.9)	(+2.3) +0.7
逆紹介率 ※ (%)	— (29.4)	48以上 (28以上)	47.8 (34.5)	(+5.1) △0.2
クリニカルパス数 (種類)	96	90	126	+30 +36
クリニカルパス適用率 (%)	25.7	40.0	41.9	+16.2 +1.9
経常収支比率 (%)	104.6	99.9	105.9	+1.3 +6.0
病床利用率 (%)	88.4	89.0	91.3	+2.9 +2.3
材料費比率 (%)	23.7	27.0	23.2	△0.5 △3.8
経費比率 (%)	18.2	19.7	17.3	△0.9 △2.4
給与費比率 (%)	52.9	53.8	52.6	△0.3 △1.2